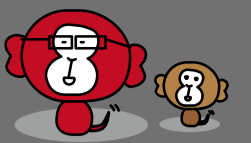


# 高千穂通りを愉しくする会



<取り組みのテーマ>

## 街角をてらす、市民による市民のためのサードプレイスの創出

家庭でも職場でもない第三の居場所（サードプレイス）を公共の空間である道の上につくる

### ① 活動概要：道路管理問題を発端とした市民によるオープンテラスの設置

私たちは、市民に素通りされてしまう道路を、愉しく賑やかな市民の道に変えていく活動をしています。市民から寄付金を集めて、歩道内の壊れてしまった噴水の上に、市民のための多目的スペースを、自分たちで設置し、6年間で167回のイベントを実施してきました。これによって、若者たちの音楽やダンス、子供連れのお母さん達と大道芸人がふれあうといった、愉しく賑やかな場所が生まれました。



道路管理問題とは

- ① 噴水施設を取り囲む路上駐輪
- ② 大水害の影響で景観機能を失った噴水施設
- ③ 街路樹に群がるムクドリの子



活動前



オープンテラスの設置



現在



### ② 活動上の工夫点：通りと人の興味の接点づくり

高千穂通りはもともとオフィス通りで、人の居場所は建物の中でした。そこで、オープンテラスに興味を持ってくれる人を一人でも多く作るため、7つの工夫を図りました。

1. オープンテラスの定期利用
  2. 参加主体のメリット創出
  3. 人の興味づくり=商業施設との連携
  4. イベント利用料や手続き代行による事業収入
  5. 市民がイベントしやすい設備環境
  6. 噴水施設の一部撤去による仮設設置
  7. 市民主導・県独自の社会実験による設置
- 一言でいえば、**民官を越えた give & take**

市民が主役になれる文化発信イベントの定期開催

- 中心市街地商店街による定期利用
- 大型商業施設との連携



苦労も沢山ありました。話し合いの場が年度を超えて途切れた！お金が無い！床がほげた（抜けた）！



### ③ 会の特徴：ボスたちの自律的なマネジメント活動 …そして、これから。

活動のきっかけは、路上駐輪や街路樹に集まる鳥の糞、機能を失った噴水施設のこれからについて話し合う県庁主催のワークショップでした。愉しくする会は、沿道企業・道路/商業行政・まちづくりに関する任意団体・地域組織の代表及び所属員、一般市民で構成されています。制度上のハードル※1をクリアするため、行政、商業者、市民の様々なボス（リーダー）※2が先導して調整を行いました。当初は3年間の仮設の社会実験として始めたのですが、行政や市民の高い評価を得て、現在まで管理と運営を続けています。安全管理、活動資金など課題はあります。しかし、この活動によって、道に市民の居場所を取り戻すことは、人に豊かな心を取り戻すことを再認識しました。今、地方に中心市街地という言葉はあっても、人の温もりといった感覚は、淋しくも消えつつあります。確かな未来につなげるため、街の中に、市民の力で温かな心の故郷をはぐくむこの活動をこれからも続けていきます。

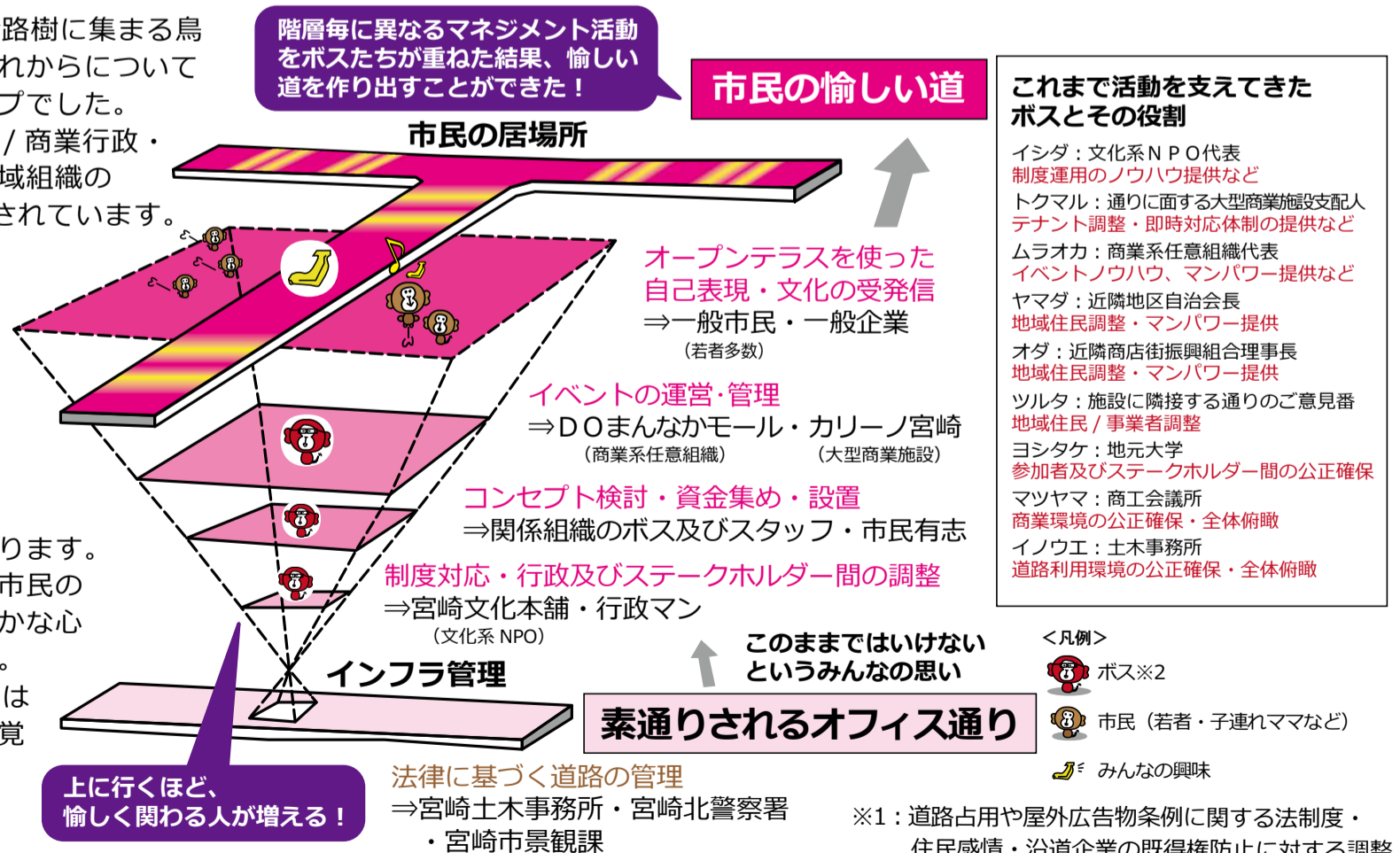


図 - 自律的なマネジメント活動と市民の居場所の関係図